資料２

令和２年度第１回岐阜市自然環境保全推進委員会

普及・活用部会　議事概要（11 月 25 日）

審議事項　生物多様性関連産業推進の検討

生物多様性関連産業を代表して２名のアドバイザー（岐阜中央森林組合支所長、長良川漁業協同組合副組合長）を招き、生物多様性保全に関係する取り組み事例などを報告していただいた後、意見交換等を行った。

【アドバイザーからの事例報告】
・災害に強い森づくり、野生生物と共生する森づくりについて（岐阜中央森林組合より）
・アユの人工ふ化の取り組みについて（長良川漁業協同組合より）

【生物多様性関連産業推進に係る課題等について】
・生物多様性の保全は、環境や野生生物の“保全活動”だけでなく、社会や産業、企業活動などによる“資源管理”も重要である。
・岐阜中央森林組合や長良川漁業協同組合の取り組みにより、生態系サービスを受けていること、生物多様性保全に繋がっていることなどを意識している市民は少ないと思うが、大事なことなのでもっと周知したほうがよい。
・水産や林業は活動の現場が見えないため、現場の人の話を聞いてもらう等、生物多様性関連産業を知ってもらえる場が持てるとよい。
・日々の暮らしの中で生物多様性関連産業との関わりを、市民一人ひとりが自分の事として考えられるよう働きかけていきたい。

【周知、啓発について】
・生態系サービスといった言葉は知らなくても、自然との関わりを考えている産業や企業の物を選択できる子どもを育てると、山や川の価値が上がり、地域の生物多様性保全に繋がる。
・子どもの頃に身近な生きものを学ぶ体験等をすると自然の大切さを理解できるし、親も子どもと一緒に体験することで意識が向上する。
・生物多様性の啓発は身近な自然に気付くきっかけ作りが重要であり、そのきっかけは“面白い”ものでなければいけない。
・身近に生きものが存在する事、自然の面白さなどについて、啓発ツールを作成して分かりやすく紹介してはどうか。
・啓発方法については、今後の課題としたい。
・コロナ禍の影響で自然を楽しむために野外に出る人は増えているので、自然に興味を持ってもらえるチャンスである。
・生物多様性関連産業や関係者、関係団体などと連携、協力しながら、市民が楽しく岐阜市の自然に親しみ、生物多様性やその恩恵を感じられるようなプログラムを検討したい。